

## 大学名：中部大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	愛知教育大学と相談のうえ、2021年度の加盟希望校（長久手西小学校、田橋市立泉小学校）については、愛知教育大学に支援を引き受けていただいた。 今後も引き続き相談のうえ、分担をしていきたい。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	該当なし。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	愛知県教育委員会主催のユネスコスクール交流会にて、中部大学古澤准教授がファシリテーターとして参加し、助言等を行った。また、それを契機として2022年度に古澤准教授が講師として参加中学にて講演を行う予定である。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	「ESD コンソーシアム愛知 ESD・SDGs 活動成果発表会」（2022年3月26日）に3校のユネスコスクールに参加してもらった。 <a href="https://esd-aichi.com/news/">https://esd-aichi.com/news/</a>
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	上記の発表会に向けて、参加校に対し実践内容と発表の助言を行った。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	中部大学春日丘高等学校のESD関連プロジェクトに講師として中部大学国際ESD・SDGsセンター教員が参加・指導した。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ESD コンソーシアム愛知のHP上で情報発信を行った。 <a href="https://esd-aichi.com/index.html">https://esd-aichi.com/index.html</a>
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	中部大学古澤准教授が「SDGs クエスト未来甲子園」東海地域実行委員会常任委員として参加し、ユネスコスクールを含む高校生の活動支援助言を行った。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学	愛知県教育委員会が設置した「ユネスコスクール支援会議」の委員として、愛知県下のユネスコスクールの支援を行った。

	間の連携を促進することができた。	
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	該当なし。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	該当なし。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	該当なし。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	各種イベントの開催について、大学内で広報を行なった。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	学部教育科目「持続学のすすめ」および大学院科目「SDGs と共生社会」においてユネスコスクール活動を含むESDの重要性について講義を行った。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	該当なし。
	4. 自由記述	中部大学が幹事機関を担う「中部ESD拠点協議会(RCE CHUBU)」では、多様な主体の参加によるESDの推進を行っており、同協議会活動にESDに取り組む教員が複数参加しているため、間接的に教員教育を行っている。